

謹んで新春の
およろこびと申上げま

あけましておめでとうございます。
町民の皆さまには、輝かしい新春をお
迎えることと謹んで喜び申し上げます。

昨年は、2,000mmという年間総雨
量の3分の2の夏の豪雨により地すべり
をはじめとする多くの災害が発生し、避
難勧告や避難指示と、町民の皆さまもか
つてない困難を強いられる年となりました。

この対応を通じて、集落における絆の
強さ、さらには要となった消防団活動の
重要性を改めて確認することができ、結
果として人的被害だけは免れることがで
きました。

気候変動による地球温暖化が、私たち
の日常生活、人命すらも脅かす現実、
改めて「森林」を守る取り組みの重要性、
緊急性を思い知らされた年でもありまし
た。



大豊町長 岩崎憲郎

地方創生の叫ばれる新年にあたり「森
林」を生かす取り組みから、「環境世紀
にふさわしい元気な山村」の再生を目指
し、決意も新たに取り組みを進めてまい
ります。

新しい年が、素晴らしい1年となりま
すようお祈り申し上げますとともに、さ
らなる飛躍の年となるよう決意を込めま
して、新年のごあいさついたします。



大豊町議会

大豊町民 防災 塾 開講

あけましておめでとうございます。
広報「ひとりすと」で「町民防
災塾」の塾長をこれから1年間に
わたって務めさせていただきます
のでよろしくお願ひします。

本町は、昨年の台風による記録
的な豪雨で町内の至るところで浸
水被害、土砂崩落や地すべり災害
が発生しました。被害に遭われた
皆さまに心よりお見舞い申し上げ
ます。

さて台風12号と11号では、町内
の沖野々観測所で1,962ミリ
もの雨が記録されました。高知県
山間部の年間平均総雨量は、約3,000
ミリです。約10日間
年間の3分の2もの雨が降ったこ
とになります。所によっては、1
時間で120ミリの雨が降った地区も
ありました。日ごろは、山河に囲
まれた自然豊かな恩恵を受けて
いますが、時には猛烈な雨によっ
て引き起こされたさまざまな現象
が私たちを襲うこともあるという
ことを再認識した災害であったと
思います。実は、大豊町を襲う災
害は、大雨を起因とした災害ばかり
ではありません。地震や火山の
噴火なども歴史をひも解けば大豊
にとって影響のある災害となっ
ています。

この町民防災塾は、災害を知る、
災害から命を守ることを目指し開
講します。
今後、土砂災害・水害・地震な
どの自然災害を中心に
①町内で起こりうる災害は
②どのような現象なのか
③命を守るためにどう行動すれば
いいか
④防災情報をどう読み解くか
など、毎号単位で掲載していきま
す。執筆陣もそれぞれの分野の専
門家が担当します。

掲載号	テーマ
1月号	大豊町民防災塾開講
2月号	自然災害を知る
3月号	防災情報の入手方法
4月号	気象災害と情報
5月号	土砂と地すべり災害
6月号	河川災害（洪水）
7月号	台風災害と備え
8月号	風水害と避難を学ぶ
9月号	地震災害
10月号	南海大地震に備える
11月号	自主防災の役割
12月号	自助・共助・公助

できれば町民防災塾を読まれて
皆さまが疑問に思ったことにも答
えていきたいと考えています。遠
慮なくお問い合わせください。
私が講演などでよく使う言葉に
「災害に場所なし時なし予告なし」
があります。これは多くの自然災
害は、あらかじめ起こる場所や時
間の特定、さらに被害規模を知る
ことは容易ではないということ
を表現しています。
しかし、災害が起こることを止
めることはできませんが私たちの
日ごろの努力で人的被害などは防
止することはできます。そのため
には

「発生する現象の特徴」
「被害の様相」
「現象に応じた被災回避行動」
「命を守る防災情報の読み解き方」
をあらかじめ知っておくことと知
らないのでは明らかに結果は違っ
てくるはず。過去の災害でも
とっさの判断や行動が命を守った
事例は無数にあるのです。
そのような術も本塾では皆さま
と共有していきたいと考えており
ます。

塾長 松尾一郎



塾長 松尾一郎の略歴
1955年生まれ 長崎市出身
大豊町タイムライン検討部会座長
CeMI 環境・防災研究所副所長
東京大学生産技術研究所研究員
日本災害情報学会理事
専門分野 減災社会学・防災情報

「大豊町民防災塾」に関する問い合わせ先 … 総務課庶務班 ☎972-0450